

### 3-8 事務部門管理者会議

本会議は、平成9年度より新規事業として開始した事業で、13年度で5回目となる。事務部門の最高責任者の方々を対象とした理事長・学長会議の事務局版とも言える会議で、大学の事務当局が情報化を進める上での基本的な考え方について十分理解いただくことを目的としている。

13年度は、教育改革の一つの手段として、教育の情報化による授業改善の重要性について理解を深めることを目的として、「教育の情報化への課題と対応策」について井端事務局長から、情報化の意義と情報化がもたらす課題と今後の大学としての対応について講演があり、次いで、「大学としての教育支援体制への取り組み」について2大学から大学としての実例報告を受け、教育支援体制としての可能性と限界を見極めることにした。また、補助金の申請内容が補助を希望する大義名文が不明確であるところが多いことから、内容を大学内で十分協議して進めることの提案があった。以下に、開催要項を掲載する。

#### 第5回事務部門管理者会議開催要項

##### I. 目的

教育の情報化を大学全体で推進するため、事務部門管理者に大学として対応すべき教育面での情報化の課題、対応策、補助金の活用について関連情報を提供し、理解の普及を図る。

##### II. プログラム

13:30 開会挨拶 戸高 敏之 会長（社団法人 私立大学情報教育協会）

13:40 「教育の情報化への課題と対応策」

大学本来の使命は、多様な価値観を持った人材の育成であり、それを実現するのが教育である。私立大学が存在する理由もそこにある。教育改革が叫ばれて久しいが、学生の学力低下、コミュニケーション能力の不足など教育成果が問われている。問題は、学生に魅力ある授業をいかに提供することが可能なのか、大学あげて授業改革に取り組むことが求められている。そのような状況の中で、授業に情報技術を導入して教育改善を目指す教育の情報化は、喫緊の課題である。そこで、情報化の意義と情報化がもたらす課題と今後の大学としての対応について提言する。

【説明】 井端 正臣 事務局長（社団法人 私立大学情報教育協会）

14:50 「大学としての教育支援体制への取り組み」

教育の情報化を実現するためには、大学としての教育の支援体制が整備されていることが不可欠となる。規模の大小を問わず、大学として対応すべき支援の範囲と内容等について、例えば、教材等の電子化、電子教材の開発、シラバスの電子化、IT を活用した教員と学生との情報交流、教員・学生への情報リテラシー教育、ヘルプデスクなど、実際に先駆的に取り組まれている大学の実情と将来への課題も含めて報告いただき、教育支援体制としての可能性と限界を見極める機会としたい。

**【取り組み事例】**

多摩大学の例： 黒瀬 洋 氏（メディア&インフォメーション・センター）

中部大学の例： 杉山 恵子 氏（学術情報センター）

15:50 休憩

16:20 「情報関係補助金に関する申請のノウハウ」

情報関係補助金を活用して、どのように教育改革を図ることが可能なのか。補助金の補助対象の範囲や申請上の留意点について徹底した紹介を行い、大学の予算編成に反映いただけるよう情報提供を行う。

**【説明】** 社団法人 私立大学情報教育協会 事務局

17:00 コミュニケーション

18:00 閉会